

## 80歳以上の脳卒中患者におけるADL能力向上の規定因子 ～リハビリテーション量に着目して多変量解析を用いた検討～

### 1. 研究の対象

2020年4月～2022年3月に美原記念病院回復期リハビリテーション病棟に入院した80歳以上の方

### 2. 研究目的・方法

回復期リハビリテーションの役割の一つとして、十分なリハビリテーション量を集中的に投入し、患者の日常生活動作を改善することがあげられます。

近年、リハビリテーションにおけるレセプト減額査定が増加しています。減額査定理由の一つとして、80歳以上の高齢者に対して1日6単位（1単位：20分のリハビリテーション）を超える単位数を提供することが過剰として、1日7単位以上実施した単位を減額査定していることが報告されています。当院先行研究において、80歳以上の高齢者に対するリハ量とその効果の関連性について単変量解析を行い、日常生活動作の改善を認められた患者のリハビリテーション量は、改善を認めなかった患者に比べ多いことを報告しました。しかし、この報告では、単変量解析での検討であり、多変量解析を用いての詳細な検討は行っていなく、80歳以上の高齢者に対するリハビリテーションの量とその効果の関連性については十分に検証されていません。

今回、回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーション量と日常生活動作の自立度を示す指標であるFunctional Independence Measure (FIM)の関連性について多変量解析を用いて明らかにし、80歳以上の脳卒中患者に対するリハビリテーション量を担保すべきか否か判断する一助とすることをめざしていきます。

美原記念病院リハビリテーション部では、入院時と退院時に加え、週に1回リハビリテーション担当者が身体機能評価や生活状況の評価を行っています。今回の調査には、このデータを用います。方法は、FIMとリハビリテーション単位数を中心としたデータの回復経過を作成し、回復経過内でのデータ比較や麻痺の程度など他データとの関連を調査します。

これらの研究は、2022年11月～2024年12月の間に実施します。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、疾患、身体機能の情報、生活状況の情報 等

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

研究責任者 石森卓矢

住 所：群馬県伊勢崎市太田町 366

T E L : 0270-27-8813 F A X : 0270-24-3359

-----以上